

〈学校教育（基礎教育）分野の点検・評価〉

学校教育（基礎教育）分野については、大きく学校教育課・指導室事業と給食センター事業に分けて点検・評価しました。

I 学校教育課・指導室事業

1 教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図ります。

項 目	1 児童生徒が安心して学べる環境を整備します。
目標・取組 概要	児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保するとともに、障がいのある児童生徒にも安全でゆとりを持って学校生活を送れるよう配慮した施設整備に努めます。 ① 御所ヶ丘中学校屋内運動場改修工事 ② 御所ヶ丘小学校校舎改修実施設計業務 ③ 大野小学校屋内運動場改修工事実施設計業務 ④ 学校施設長寿命化計画の策定
自己評価	① 御所ヶ丘中学校屋内運動場（体育館）につきましては、2月に工事が終了し、翌月の卒業式から使用されています。 ② 老朽化した御所ヶ丘小学校校舎につきましては、長寿命化を図るとともに、エレベーター等を整備し、障がいのある児童にも配慮した設計を行い、令和元年度に改修工事を行います。 ③ 大野小学校屋内運動場（体育館）につきましては、建物の長寿命化を図るほか、多目的トイレの設置や段差の解消など、障がいのある児童に配慮した設計を行い、令和元年度に改修工事を行います。 ④ 学校施設の老朽化に伴い、大規模改修や建替えなどが必要な時期を迎え、多額の費用が必要になるため、計画的な施設の長寿命化によりコスト縮減及び予算の平準化を図り、学校施設の機能を維持し、使用年数を延ばすために計画を策定しました。
今後の課題と 対応の方向性	校舎の大規模改修時には、エレベーター等を設置し、障がいのある児童生徒にも、安心して学校生活を送れるよう配慮した施設整備に努めます。 さらに、大規模改修等の学習環境整備には、膨大な経費が掛かることから、補助金等を最大限に利用するとともに、経費の削減に努めます。



御所ヶ丘中学校体育館

項 目	2 通学路の安全点検と危機管理体制を強化します。
目標・取組 概要	安全で安定した教育環境の確保のため、通学路の安全点検、災害時引渡し訓練等危機管理体制の強化を図ります。 ① 通学路の危険個所の合同点検の実施（8/21） ② 小中学校児童生徒引渡し訓練の実施（9/1）
自己評価	① 合同点検を行った危険個所10箇所のうち4箇所については、平成30年度中に安全対策を講じました。また、未実施の6箇所のうち2箇所については、標識設置の順番待ちの状況であり、3箇所についても令和元年12月までには対策が講じられる予定です。なお、残り1箇所については、保育園（松並地区）の建設後に対応する予定となっています。 ② 災害時を想定した小中学校児童生徒の引渡し訓練を実施することにより、危機管理体制の再確認とともに、保護者との更なる連携強化を図ることができました。
今後の課題と 対応の方向性	児童生徒が、事故や事件に巻き込まれないよう、学校での交通安全指導や防犯教育の強化を図ります。 また、警察や道路管理者等の関係者と連携を密にし、安全対策を講じるとともに、保護者や地域の方々の協力を得ながら、登下校時の防犯対策を講じていく必要があります。



通学路合同点検

〈外部の方々から頂いた意見（保護者）〉

- * 通学路となっている道路で、信号機や街灯、横断歩道等の設置及び道路の拡幅や歩道の整備をしてほしい。

2 学校教育プラン

〔1〕 ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは、学校教育において最も基本的かつ重要なことです。児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることができる教育活動を行います。

学校は、学習指導要領に基づき、基礎的な知識及び技能を習得させると共に、これらを活用して課題を解決するために主体的で対話的な学びの場を工夫し、児童生徒の思考力、判断力、表現力を育成します。また、地域や子供の実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

項 目	1 児童生徒に確かな学力を身に付けさせます。
目標・取組 概要	児童生徒が知識及び技能を習得し、それらを主体的に活用して思考力、判断力、表現力等を高めることができる授業づくりや環境整備を行います。 ① きらめきプロジェクト（守谷市保幼小中高一貫教育）の推進

今後の課題と対応の方向性	① テストの平均点から学力の向上が図られていると分析できる一方で、児童生徒一人ひとりの学力の個人差が課題となっています。結果を十分に分析し、さらなる授業改善に取り組みます。そのために、小小、小中連携による協働的な授業づくりを継続します。 ② 個に応じた学習支援を充実させるため、放課後や長期休業、そしてサタデー学習支援教室等の個別指導の時間や機会を引き続き設けます。 ③ 学習支援ティーチャーや社会人ＴＴ等の配置基準を見直し、学校間格差をなくし、より適切な人的環境の整備に努めます。
---------------------	--

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

- ＊ 保幼小中高の一貫教育を今後も進めてもらいたい。異校種との連携はとても大切である。
- ＊ 一貫教育は学校と地域をつなぐことにもつながる。特に、外国語教育や図書館教育でさらにつながりを重視してほしい。
- ＊ 中学校区で、共通の重点目標や研究テーマを決めて連携を図っているところがよい。
- ＊ 高校生との交流はよい体験になると思う。高校生に教えてもらった内容は一生忘れない思い出になる。

〔２〕 ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

全教育活動において、他者とのかかわりを通して自己有用感に裏付けられた自尊感情（自己肯定感）を育み、児童生徒の心豊かな社会性の基礎を養います。

項 目	1 児童生徒が豊かな心を育み、良好な人間関係が築けるようにします。
目標・取組概要	学校、家庭、地域が一体となり児童生徒が主体的、対話的に規範意識や道徳性を高めると共に、一人ひとりの心身の成長に応じることができる生徒指導や教育相談体制づくりに努めます。 ① きらめきプロジェクト（守谷市保幼小中高一貫教育）の推進 ② スクールカウンセラーの配置 ③ 機動性・柔軟性のある守谷市総合教育支援センターの組織整備と支援策の充実 ④ 「いじめ対策本部」の設置
自己評価	① 道徳教育は、守谷市保幼小中高一貫教育の重点の一つとして、各中学校区及び各校の道徳教育の充実を目指して授業改善に取り組んでいます。時には保護者も様々な形で参加しながら、家庭や地域と連携した心の教育を推進しています。さらに、市内の小中学校及び高校が合同で「Moriya きらめきフォーラム」を開催し「学校から地域へ広げよう ～目に見える変化を起こす～」という学校と地域が連携を深めるスローガンを策定しました。 ② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー(*2)等の専門スタッフを生徒指導や教育相談の組織に有機的に位置付け、教職員と連携・協働していじめや問題行動、また家庭環境などの諸問題に対応しました。3名のスクールカウンセラーの

相談実績は、延べ155名、512回でした。

- ③ 総合教育支援センターでは、教育相談、適応指導教室、就学相談の3つの事業を柱とし、包括的な教育支援に努めています。設立3年目を迎えた本年度は、各事業の取組が軌道に乗りはじめ、特にセンターが学校と専門機関をつなぐ中枢機関として確立することができました。

○ 守谷市総合教育支援センターの相談実績 (延べ件数)

	来所 相談	電話 相談	訪問 相談	巡回 相談	合計
H28	238	220	145	201	804
H29	353	132	122	200	807
H30	380	95	324	160	959

○ 不登校出現率 (%)

区 分	小学校			中学校		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30
守谷市	0.52	0.59	1.13	2.53	3.17	2.75
県	0.51	0.57	—	3.15	3.31	—
国	0.47	0.54	—	3.01	3.25	—

○ 教育支援センターの訪問型支援（アウトリーチ件数）

平成30年度 11件

- ④ 「守谷市いじめ対策本部及び守谷市立小中学校いじめ対策本部設置要綱」を策定し、いじめの早期発見、迅速且つ組織的な対応、解消に向けて具体的な策を講じる組織を明確化しました。各学校で毎月実施されるいじめ対策会議の会議録は、いじめ認知報告とともに提出され、複数の目で些細な兆候の段階から情報を共有し、適切に対応するよう徹底して取り組んでいます。

○ いじめ認知件数 (件)

	小学校	中学校	合 計	解消件数	継続支援
H28	36	35	71	57	14
H29	62	23	85	56	29
H30	103	43	146	99	47



Moriya きらめきフォーラム



道徳教育の推進

今後の課題と対応の方向性	① 今後も、道德教育の充実を図りながら、教育活動全体を通じて豊かな心が育めるよう、異校種間においても一貫して多様な体験活動や交流活動を実施し、児童生徒の自己有用感を育て、自己肯定感を高めるよう努めます。 ② 心理学の専門家との連携は、年々重要度が増しています。今後は相談業務以外に、児童生徒に係る会議等への出席を促し、専門的な見地からの助言も含め、学校との連携を図ります。 ③ 守谷市総合教育支援センターが、さらに包括的な教育支援センターとして機能するためには、諸問題に専門的に対応することができる相談員の増員が求められています。また、支援センター相談員が家庭訪問をする等の訪問型支援「アウトリーチ」(*3)の件数も増やし、学校と連携しながら不登校児童生徒及びその保護者への個別支援の充実を図ります。
---------------------	---

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

- * 授業参観で道德の授業を実施しているので、様子がよく分かってよい。
- * いじめ対策会議やアンケート結果の周知は、保護者からの信頼にもつながる。
- * これからも、地域との連携を図りながら人間性や社会性を育てていき、「役に立つ」という意識を持つとともに、自身の成長や変容を実感できる活動を推進してほしい。

〔3〕 ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

近年、子ども達の体力低下が著しいと言われていることから、その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」を進め、心身共に健やかな児童生徒を育てます。

項 目	1 児童生徒の健やかな心身を育みます。																											
目標・取組概要	児童生徒が自ら自分自身の心身の健康を意識し、たくましい身体づくりをしようとする態度を育成するための、食育や運動の機会と環境の充実を図ります。 ① 食育指導の実施 ② 体力の向上																											
自己評価	① 食に関する指導は、栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行いました。その結果、食事のマナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたり、栄養や食物についての知識や関心が高まったり、望ましい食習慣の定着を図ることができました。 ② 学校では体育の学習や業間休み、体育的行事、中学校での部活動を含めた教育活動の中で積極的に運動を取り入れ、体力の向上を図ってきました。 ○ 体力テストA+Bの達成率の推移 (％) <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr><tr><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th></tr><tr><td>守谷市</td><td>53.6</td><td>54.6</td><td>55.8</td><td>60.1</td><td>65.9</td><td>63.3</td></tr><tr><td>県平均</td><td>54.5</td><td>55.9</td><td>56.0</td><td>60.7</td><td>61.9</td><td>62.1</td></tr></table> ※A+B＝体力テスト5段階評価A～Dの内、上位2段階の評価	区分	小学校			中学校			H28	H29	H30	H28	H29	H30	守谷市	53.6	54.6	55.8	60.1	65.9	63.3	県平均	54.5	55.9	56.0	60.7	61.9	62.1
区分	小学校			中学校																								
	H28	H29	H30	H28	H29	H30																						
守谷市	53.6	54.6	55.8	60.1	65.9	63.3																						
県平均	54.5	55.9	56.0	60.7	61.9	62.1																						

今後の課題と対応の方向性	① 児童生徒の体力向上を図るため、全教育活動の中で運動を取り入れる機会を多く設定し、今後も体力の向上を目指します。また、学校における食育指導のみならず、家庭と連携した食育指導（朝ご飯の大切さ等）についても充実を図ります。 ② 部活動においても、部活動指導員の積極的な導入や休息日を含めた適切な部活動時間や活動場所を確保し、中学生の心身の健康を増進させる部活動としての活性化を図ります。
---------------------	--

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

- * 体力の向上がみられ、成果が表れている。取り組みを継続してほしい。
- * 学年に応じてAEDや心肺蘇生法に関する指導の充実を図ってほしい。
- * 部活動については学校に依存しすぎている。外部コーチやクラブチームへの加入など今後の選択肢は様々あると思う。

〔４〕 ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

未来の創り手となる子ども達には、新しい時代に対応した教育が必要です。近年顕著となってきている知識・情報・技術を巡る加速度的な社会変化にも対応することができる資質や能力を高めます。

項 目	1 国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施します。
目標・取組概要	子ども達が急速なグローバル化や情報化においても、自らの力で将来を切り拓いていくために必要な外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育等の充実を図ります。 ① キャリア教育の充実 ② ALT（外国語指導助手）の活用 ③ 教職員のICT(*4)機器を使った指導力の向上
自己評価	① 発達段階に応じた組織的、系統的なキャリア教育を推進しています。中学2年生は職場体験学習を行い、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、体験報告会を通して情報活用能力・表現力を養うことができました。 ② 平成13年度から全小中学校にALTを配置し、小学校1年生からALTによる外国語教育を実施しています。授業だけでなく日常生活においても積極的に活用し、外国語に触れる場面を多く設け充実した活動が展開されています。インタラクティブ・フォーラム(*5)県大会に3名の中学生が出場、高円宮スピーチコンテスト県大会でも1名が10位以内に入賞しました。守谷市独自のイングリッシュ・フォーラムでは、中学生の英会話フォーラムだけでなく、小学生のスピーチ発表も実施しました。 ○ 意識調査「ALTと話したり活動したりすることは楽しい」と答えた小学生（抽出）の割合・・・83.0%

	○ 英検3級以上を取得した中学3年生の割合 (％) <table><tr><th></th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th></tr><tr><td>守谷市</td><td>44.3</td><td>39.6</td><td>46.7</td><td>51.0</td></tr><tr><td>茨城県</td><td>24.1</td><td>22.0</td><td>25.9</td><td>27.9</td></tr><tr><td>全 国</td><td>18.9</td><td>18.1</td><td>22.0</td><td>23.9</td></tr></table> ③ 2名の ICT 支援員が、ICT 機器を活用するための授業支援だけでなく、プログラミング(*6)教育に係る校内研修の講師を務め、教職員の情報活用能力の育成に貢献しました。各校の情報教育に係る優れた実践は、「実践事例集」としてまとめ全校に周知しました。  プログラミング教育の推進  ALT の活用		H27	H28	H29	H30	守谷市	44.3	39.6	46.7	51.0	茨城県	24.1	22.0	25.9	27.9	全 国	18.9	18.1	22.0	23.9
	H27	H28	H29	H30																	
守谷市	44.3	39.6	46.7	51.0																	
茨城県	24.1	22.0	25.9	27.9																	
全 国	18.9	18.1	22.0	23.9																	
今後の課題と対応の方向性	① 「職場体験学習」は、望ましい職業観や勤労観を育成するのに大いに役立つ一方で、事業所確保が難しいため、商工会やライオンズクラブ等に働きかけを行い、事業所の確保に努めます。また、児童生徒の成長段階に即した一貫したキャリア教育の充実に努めます。 ② 小学校の外国語教育の授業時数増加に伴い、大規模校には複数の ALT の配置が必要となってきました。ALT の配置基準の見直しを図るとともに、小学校の学級担任の英語力及び授業力向上のための研修も行います。 ③ 児童生徒の情報活用能力を育成すべく、プログラミング教育を中核とした守谷市独自の情報教育総合プラン MORI・TECH（守谷型エドテック(*7)）を策定し、各校及び保護者向けにリーフレットを配布し周知に努めます。また、教職員の ICT 機器を使った指導力を向上させるために、ICT 支援員を中心とした校内研修の充実に努めます。																				

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

- * 教育が改革の方向にあることを感じる。他市町の生徒たちは、守谷市の生徒をうらやましがっている。
- * どの子どもたちもALTとの学習に臆することなく楽しく取り組んでいる。ALTが常時配置されているのは素晴らしい。
- * ICT支援員の支援の仕方が素晴らしい。先生たちの指導力の向上につながっている。
- * 引き続き家庭と連携して、情報モラル教育の推進を図ってほしい。

〔５〕 パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。

学校は、積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、一体となって子供達を育む教育のシステムづくりを推進します。

項 目	1 保護者や地域住民との連携が図られた学校を目指します。
目標・取組 概要	学校、家庭、地域社会が一体となった教育の充実のために、地域の方々とともに児童生徒を育成する開かれた学校づくりに努めます。 ① 地域社会への授業公開と積極的情報発信 ② 地域人材の教育活動における有効活用
自己評価	① 地域社会へ向けた授業公開は、全校で積極的に行っており、学校公開日も設定しています。家庭や地域社会への情報発信として、各学校のホームページが毎日更新され、特に保護者から高い評価を得ています。また、メールマガジン配信システムは、不審者情報等の緊急性のある情報提供や連絡などに大変役立っています。 ② 地域人材の活用については、学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織され、登下校の安全指導や学習のサポートにも積極的に参加してもらい、効果が上がっています。また、地域の方々が学習内容に応じてゲストティーチャー(*8)として授業を行う機会も増えています。
今後の課題と 対応の方向性	スクールサポーターや学校支援ボランティア等の協力がより効果的に活用・運営できる組織づくりを促進します。また、一人で登下校する児童生徒の安全確保が課題となっており、各地区のまちづくり協議会との連携も併せて、今後もより一層、地域の方々の協力と共に児童生徒の安全確保に努めます。

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

- * ホームページは内容も充実しており、毎日楽しみにしている。今後も、生き生きとした活動を発信して欲しい。
- * 様々な体験活動で、地域や保護者との交流を図っているのは、大変素晴らしい。今後も継続して欲しい。
- * 教員の働き方を見直すきっかけ作りとして、PTA や外部人材に積極的に働きかけ、業務分担を図ってほしい。

Ⅱ 給食センター事業

学校給食は、単に栄養補給にとどまらず、児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものとして、学校給食法で7つの目標を定めています。これらの目標を視点とし、評価を行いました。